

貝類

Yaeyama mangrove clam / *Geloina erosa* / Yaeyama hirugi-shijimi / ヤエヤマヒ

ルギシジミ奄美大島の河口やマングローブに生息するこのシジミ属の貝は、泥や河口水の中の栄養分を摂取している。大型で拳程度の大きさの貝は、外側は土井茶色で、内側は白い。マングローブの厳しい環境でも生き延びることができる二枚貝で、潮が引いた際に殻を閉じ、次の満潮まで中に水を貯水することができる。汚染された水をろ過しながら餌を取るため、マングローブの生態系への重要な役割をもつ。

Common oriental lamp shell / *Lingula anatine* / Midori shamisen-gai / ミドリ

シ ヤ ミ セ ン ガ イ

この海洋生物は腕足動物の仲間で、殻の両面に弁があり、蝶番で繋がっていて、アサリ科とよく間違われることがある。体長は約 3cm で、平たく、ほぼ長方形で、一カ所が尖っている。茶色を帯びた緑色の貝は、肉莖と呼ばれる長い柄が体の後ろから伸び、砂や泥に潜るために使われている。ミドリシャミセンガイは汽水域の潮間帯から水をろ過し、餌を吸収する。腕足動物のシャミセンガイは古代の化石に似ていることから、進化していない生物を「生きた化石」とダーウィンは呼んだ。（ただし、今では科学的に間違っていると多くは考えている。）和名の「ミドリシャミセンガイ」は伝統的な首の長い弦楽器にちなんで名づけられた。